

マックス株式会社 2023 年3月期第1四半期 決算説明会 質疑応答録

この質疑応答録は、2022 年 7 月 29 日（金）に開催したアナリスト、ファンドマネージャ向け決算説明会電話会議にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

■インダストリアル機器部門について

〔質問 1〕

コンクリート構造物向け工具の今期第 1 四半期と前期第 1 四半期の売上実績を教えてください。

〔回答 1〕

コンクリート構造物向け工具の今期第 1 四半期の売上実績は、海外 58 億円、国内 12 億円となりました。前年同期の実績は、海外 41 億円、国内 10 億円でしたので、海外は 40%の伸長、国内は 18%の伸長となりました。

機械と消耗品でみると、海外の機械は 44%の伸長、消耗品は 42%の伸長となりました。国内の機械は 16%の伸長、消耗品は 25%の伸長となりました。

国内・海外合計は、70 億円で 36%の伸長です。

数量ベースでは、北米は機械 16%、消耗品 11%の増加、欧州は機械 22%、消耗品 36%の増加、国内は機械 14%、消耗品 12%の増加となりました。

〔質問 2〕

国内のコンクリート構造物向け工具の機械の需要状況を教えてください。

〔回答 2〕

国内のコンクリート構造物向け工具の機械は、前期第 4 四半期から増加傾向にあり、今期第 1 四半期も好調を維持しています。

より太い鉄筋を結束することが可能な大口径モデルを土木市場や既存の建築市場に提案する活動を進めたことに加えて、鉄筋結束機を主力拡販商品として営業工数を集中的に投入できる体制にシフトしています。これら取組みの成果が徐々に出てきたことが主な伸長の要因であると考えており、今後も国内では一定の需要が続くことを見込んでいます。

〔質問 3〕

海外の鉄筋結束機事業の今後の見通しを教えてください。

〔回答 3〕

引き続き堅調に推移すると考えています。ロシア・ウクライナ情勢の影響で、欧州では建設資材の供給の不安定化により公共投資のプロジェクトが一時中断される事例も発生していますが、現時点では、大きなリスク要因とは認識していません。

〔質問 4〕

欧州のコンクリート構造物向け工具の販売が好調な要因を教えてください。

〔回答 4〕

市況が活況なことに加えて、前期に新設したドイツ支店など販売力の強化を狙いとした施策の効果が出てきていることが好調の要因であると考えています。

〔質問 5〕

鉄筋結束機事業の通期計画に修正はありますか。

〔回答 5〕

現状、修正はしておりませんが、第 1 四半期の鉄筋結束機事業は計画を上回る実績であることから、上期終了時点で必要に応じて通期計画を見直す予定としています。

〔質問 6〕

鉄筋結束機「ツインタイア」の競合品の状況について教えてください。

〔回答 6〕

鉄筋結束機「ツインタイア」は、市場に流通している一部の競合品と比較すると競争上の優位性を確保できていると認識しています。商品力を基盤として、実績を伸長することができていると考えています。

■オフィス機器部門について

〔質問 7〕

オートステープラ事業の今後の見通しを教えてください。

〔回答 7〕

第 2 四半期も回復傾向が続くことを想定しています。一方で、下期は見通しがやや不透明な状況であることから、2022 年 4 月 28 日公表の計画からの修正は実施していません。

〔質問 8〕

オートステープラ事業の回復の背景を教えてください。

〔回答 8〕

主要市場である欧米で経済活動が回復しており、オフィス稼働率が上昇していることが主な要因であると考えています。

■全社状況について

[質問 9]

コスト増と価格転嫁の状況について教えてください。

[回答 9]

コスト増に追随する価格転嫁を随時実施しているものの、今期第1四半期は想定以上にコスト増の影響を受けました。第2四半期以降も物流費や原材料価格は上昇傾向が続くことが想定されるため、オフィス、インダストリアル、HCRの各部門で価格転嫁を適宜実施することで、これらのコスト増をカバーできるように進めていきます。

[質問 10]

第2四半期計画における為替影響の考慮状況を教えてください。

[回答 10]

想定為替レートを見直した上で、計画を修正しています。

当社の年間換算の売上為替感応度は、米ドル 190 百万円、ユーロ 80 百万円となっています。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が 2022 年 7 月 29 日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。